

# 学校教育評価 1 学期アンケート結果、及び 昨年度7月との比較

アンケート実施：令和2年7月（数字は%）

調査人数：全校 239 人（低学年 123/125 人・高学年 116/117 人）

保護者アンケート児童数配布 回答数 207 人（家庭数 175 戸）

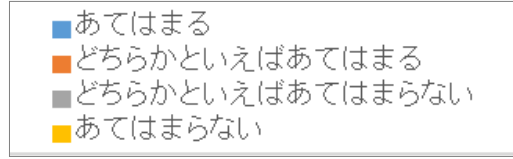
教職員 20 人

評価：A（あてはまる）

B（どちらかといえばあてはまる）

C（どちらかといえばあてはまらない）

D（あてはまらない）



## 【開かれた学校づくり】

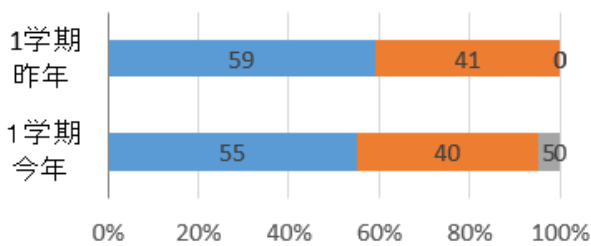
- ・学校生活や学習状況等について、積極的に情報発信し、教育活動の可視化を図る。

**教職員**（問1）学校からの家庭や地域への情報発信はよくできている。

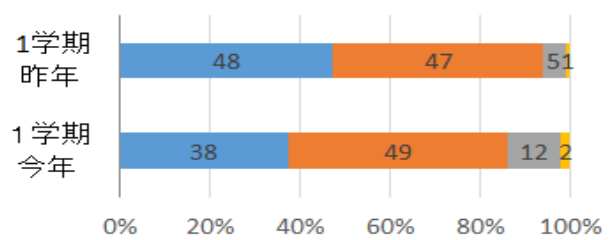
**保護者**（問1）ホームページやメールなどにより、学校の様子がよくわかる。

			A	B	C	D		達成状況
教職員	A：A+Bが90%以上 C：上記以外	B：A+Bが70%以上	問1 55	40	5	0	A	A
保護者	A：A+Bが90%以上 C：上記以外	B：A+Bが70%以上	問1 38	49	12	2	B	

教職員（評価）情報発信・可視化



保護者（評価）情報発信・可視化



## 【記述欄】

- ・ホームページでの情報発信強化はとても良いと思います。紙媒体よりも確実に情報が確認できて助かっています。
- ・ホームページでは学年の様子を更新して下さる頻度が多く、日常の生活の様子がよく伝わってくるのでありがたいです。
- ・スマホやパソコンを多く使用する方ではないので、学校のHPを見る機会が少なく様子がわかりにくいこともあります。毎週の発行は必要ありませんが、学年通信が少しあってもいいのではないのでしょうか。
- ・学年の様子はホームページがあまり更新されないのがわかりにくい気がする。学年通信の方が分かりやすかった。
- ・ホームページの「お便り／お知らせ」が多い学年と少ない学年があるように思います。今年は参観日もなく、一年生の様子がホームページでしか見られないこともあり、お忙しいとは思いますが、もう少し増やしていただけたらと思いました。
- ・学級通信がなくなったら分、学校の様子が分かりづらくなりました。（ホームページもなかなか見ることがないので）
- ・学年通信がないので、細かなことが分かりにくく不安に思うことが多くなりました。
- ・学年通信の方が分かりやすかったです。
- ・休校中はHPの発信やズームで学校や友だちとつながっているという気持ちを持てたように思います。6月からは、学校に行くことが楽しいと言っています。

- ・自粛期間中、ズームやホームページなどでつながっていることを感じていました。友だちに会えない日が続き、心配していましたが、毎日楽しく通っている姿を見て安心しています。
- ・先生方の配り忘れが目立ちます。後でメールを流したらそれで良いと思っているのか？先生の個性が強すぎるのか？子どもから日々の様子などを聞くことがあるのですが……。おかしいと思うことがたくさんあります。

### 【分析・今後の対応】

教職員・保護者ともに、昨年度の評価に比べ下がる結果となった。このことは、今年度、情報発信の手段をホームページやメールに大きく変更したことや、コロナ禍で対応を模索した結果と考えられる。休校中には、ホームページも活用しながら子どもたちのニーズに合った様々な方法で連絡を取り合った。保護者への連絡については、「安心メール」（家庭数100%登録）を有効に活用し、情報発信を行った。プリントとSNSの双方の利点を活かしながら伝えたい事が確実に伝わるように進めることができた。今後も子どもたちの様子や保護者の方への連絡については主としてホームページやメールを活用していくことを周知していく。しかし、連絡したい内容によっては、プリントでの配布をすることも選択肢に入れ、今後も保護者に伝えたいことが確実に伝わる方法を選ぶ。配布物については、職員全体で気を配り、配布忘れをなくす。

### 【生活指導】

- ・家庭、地域、学校どこでも自分から進んで挨拶できる子どもを育てる。
- ・感染について正しく理解し、感染予防に努める子どもを育てる。

〈自律について〉

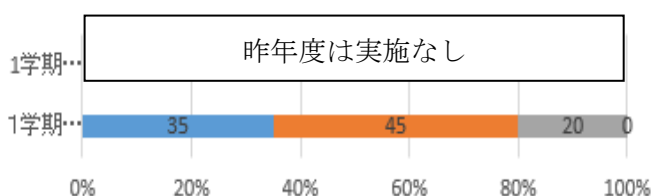
**教職員** (問2) 児童が判断したり、決めたりする機会を増やしている。

**保護者** (問2) 家庭で自分からやろうとすることが増えてきた。

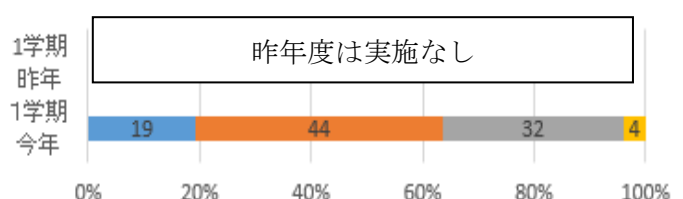
**児童** (問1) 自分で考えて行動している。

			A	B	C	D		達成状況	
教職員	A: A+Bが90%以上 C: 上記以外	B: A+Bが60%以上	問2	35	45	20	0	B	B
保護者	A: A+Bが90%以上 C: 上記以外	B: A+Bが60%以上	問2	19	44	32	4	B	
児童	A: A+Bが90%以上 C: 上記以外	B: A+Bが60%以上	問1	47	43	7	3	A	

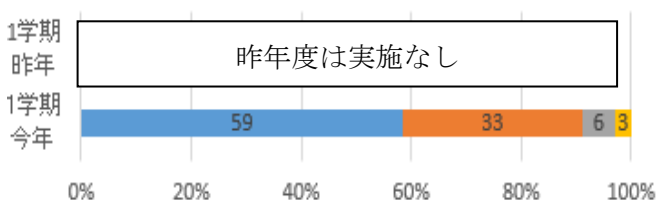
教職員(評価)選択・判断の機会の充実



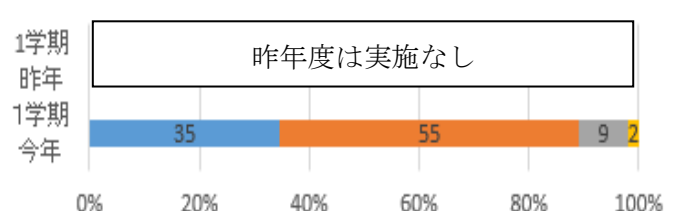
保護者(評価)自分からやろうとすることが増えた



低学年(評価)自分で考えて行動



高学年(評価)自分で考えて行動



**【記述欄】**

・休校中、ボーと過ごすことが多く、自分から進んですることが少なかったです。

**【分析・今後の対応】**

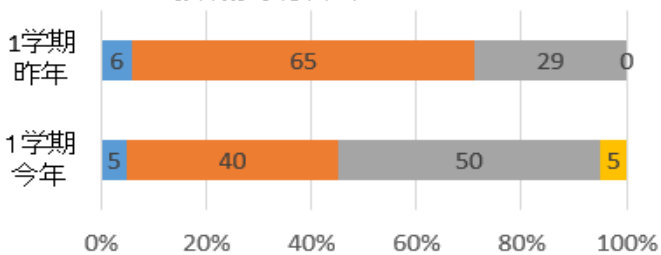
教職員は、児童の自律心を高めるために、自己選択や自己決定をする機会を積極的に増やそうとしていた。児童のアンケートに見られるように、児童は自分で考えたり、行動したりする意欲が高まっていると考えられる。一方で、保護者の結果から、児童が家庭や地域において自分で考えて行動できているとは言い切れないという結果が見られる。引き続き、児童が自発的に考え、行動する機会や場を設けるとともに、家庭とも連携しながら、児童が自律に向かう指導を進めていく必要がある。

〈挨拶について〉

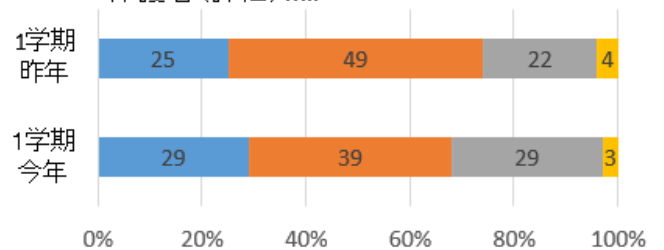
- 教職員** (問3) 子どもたちは、学校で挨拶をしている。
- 保護者** (問3) お子さん、家でも、学校でも、地域でも、よく挨拶をしている。
- 児童** (問2) 家でも学校でも地域でも、自分から進んであいさつをしている。

			A	B	C	D		達成状況	
教職員	A : A+B が 90%以上 C : 上記以外	B : A+B が 60%以上	問3	5	40	50	5	C	B
保護者	A : A+B が 90%以上 C : 上記以外	B : A+B が 60%以上	問3	29	39	29	3	B	
児童	A : A+B が 90%以上 C : 上記以外	B : A+B が 60%以上	問2	60	28	8	5	B	

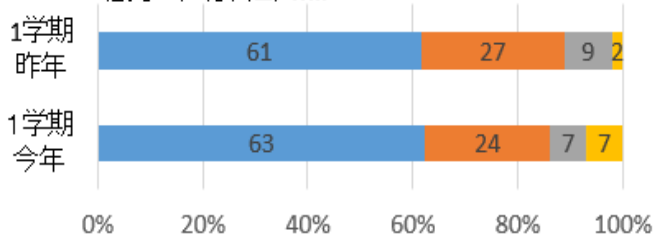
教職員(評価)挨拶



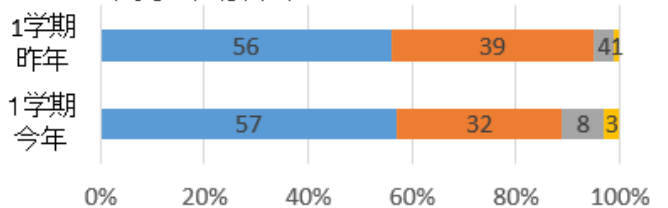
保護者(評価)挨拶



低学年(評価)挨拶



高学年(評価)挨拶



**【記述欄】**

・交通当番をしている時、あいさつを元気よくする子が少ない。以前はもっと元気にあいさつをする子が多かったような気がします。元気にあいさつをする中央っ子でいてほしいです。

**【分析・今後の対応】**

児童は、家でも学校でも地域でも、自分から進んであいさつをしているという思いを持っている。しかし、教職員や保護者は児童が進んであいさつをしていると言えないと感じている。児童と大人との考えにズレが見られるため、どういう姿になってほしいのか、どういう姿が望ましいのか、あいさつをする目的などを児童に伝えていく必要がある。

## 【学習指導】

- ・聴き合い、対話し、学び合う学びを通して、「わかった」「できた」と一人ひとりが実感し、学び続けようとする意欲を育てる。
- ・協働的な学びを通して、一人ひとりのよさや個性を認め合い、共に学び合う集団づくりに努める。

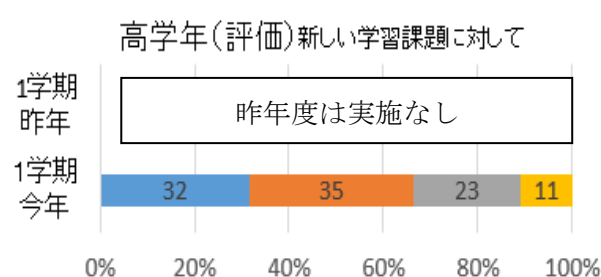
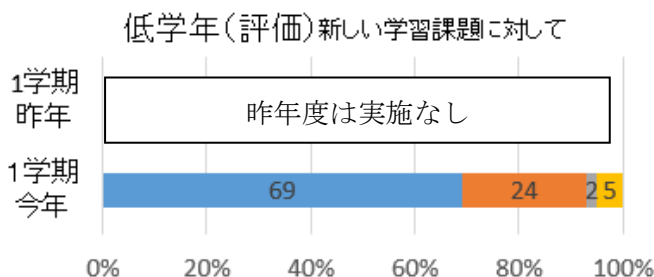
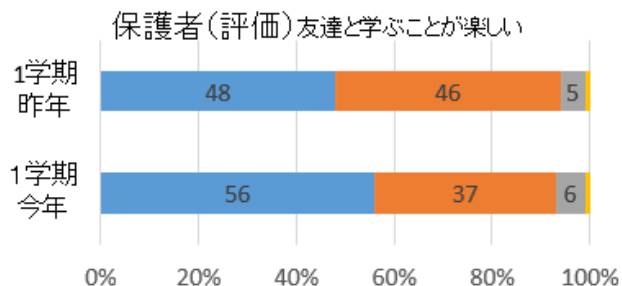
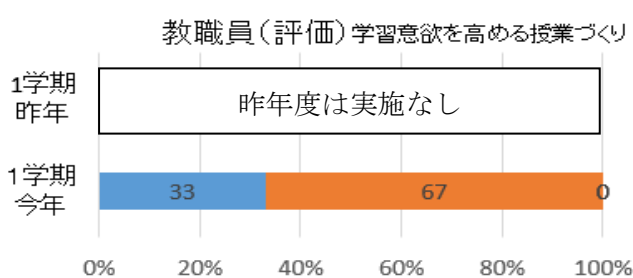
〈学ぶ意欲について〉

**教職員** (項目4) 学習意欲を高める授業づくりに努めている。

**保護者** (項目4) お子さんは、友だちと学ぶことを楽しんでいる。

**児童** (項目3) 新しい課題、学習に取り組む時は楽しみだ。

			A	B	C	D		達成 状況
教職員	A : A+B が 90%以上 C : 上記以外	B : A+B が 70%以上	問 4 33	67	0	0	A	A
保護者	A : A+B が 90%以上 C : 上記以外	B : A+B が 70%以上	問 4 56	37	6	1	A	
児童	A : A+B が 90%以上 C : 上記以外	B : A+B が 70%以上	問 3 51	29	12	8	B	



### 【記述欄】

- ・初めは学習についていけず、登校もしぶっていましたが、少しずつ理解が進み、今は積極的に学習に取り組むようになりました。

### 【分析・今後の対応】

意欲的に学習に取り組んでいる児童は多く、子ども同士で意見をつないだり、課題解決を行ったりしている楽しさを感じていると思われる。しかし、児童の評価A+評価Bは、80%ほどにとどまっている。今まで以上に子どもを中心に据え、他者とつながった面白さを感じられる授業づくりを行いたい。また、友だちとつながって課題に向き合おうとする経験を積み重ねることで、子どもたち一人ひとりの力が付き、友だちの良さに気づいたり、自分に自信が持てたりする子の育成に今後も努めたい。

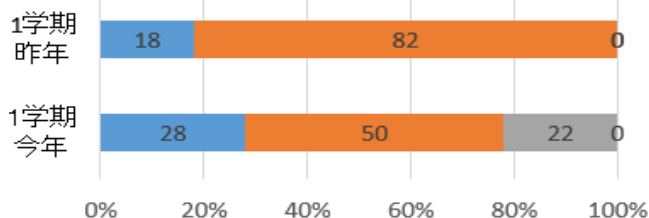
〈分かった・できたの実感について〉

**教職員** (項目5) 友だちの意見を聞いたり、考えを広げたりと、学び合いの授業づくりをしている。

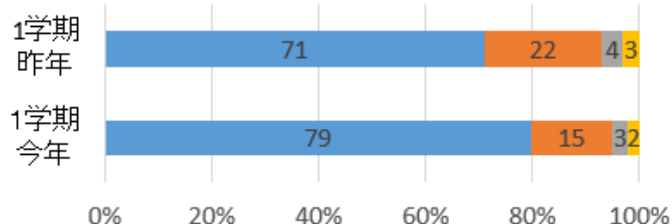
**児童** (項目4) 勉強をしていて、少しでも分かることやできることがふえてきた。

			A	B	C	D		達成状況	
教職員	A : A+Bが90%以上 C : 上記以外	B : A+Bが70%以上	問5	28	50	22	0	B	B
児童	A : A+Bが90%以上 C : 上記以外	B : A+Bが70%以上	問4	72	23	3	2	A	

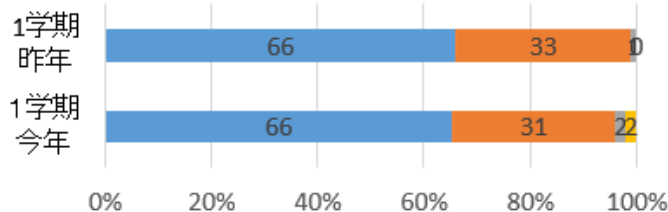
教職員(評価)学び合いの授業づくり



低学年(評価)分かることが増えた



高学年(評価)分かることが増えた



【記述欄】

- ・新学期が始まり、長期に休みだったため、勉強が追いつけていないと思います。頑張り以外で他の補習などはあるのでしょうか。

【分析・今後の対応】

「勉強をしていて、少しでも分かることやできることが増えてきた」と答えた児童は、評価A+評価Bで90%以上あり、昨年度に引き続き多かった。しかし、教職員の結果については、コロナウイルス感染拡大防止のための休校期間が長く、学習の年間カリキュラムをこなすために、学び合うことよりも学習を進めることを意識した結果と考えられる。今後、教職員間での学び合いを大事にしながら、児童の実態に合わせて「分かった」、「できた」と思える授業の工夫改善をしていく。

【人権教育】

- ・学校・家庭生活における指導を通して、互いに人権を尊重し合い、自尊感情を育むように努める。
- ・児童への心のケアを通して、感染症の影響によるいじめ・差別・偏見等の啓発に努める。

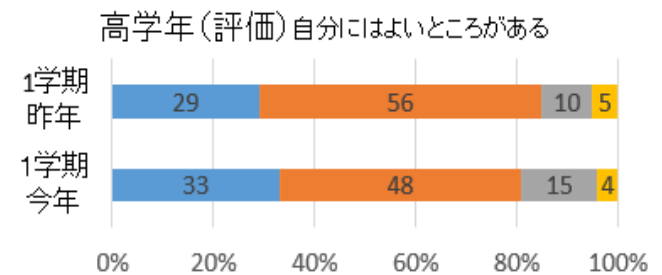
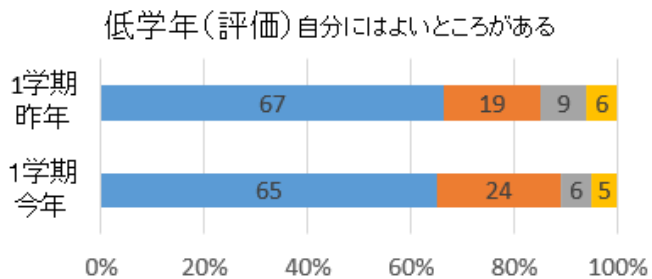
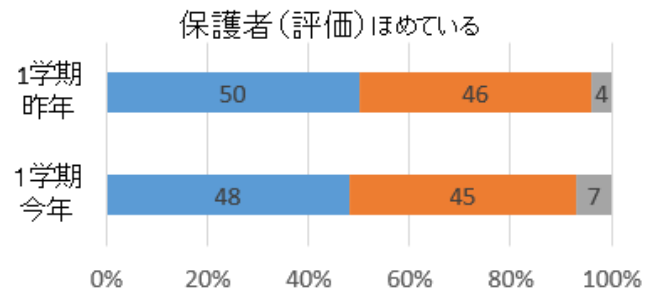
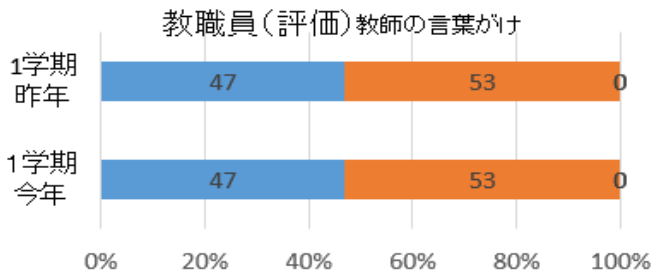
〈自尊感情について〉

教職員 (項目6) 子どもの伸びを認める言葉かけの質の向上に努めている。

保護者 (項目5) お子さんのがんばりやよいところをほめている。

児童 (項目5) 自分にはよいところがある。

			A	B	C	D		達成状況	
教職員	A : A+Bが95%以上 C : 上記以外	B : A+Bが70%以上	問6	47	53	0	0	A	B
保護者	A : A+Bが95%以上 C : 上記以外	B : A+Bが70%以上	問5	48	45	7	0	B	
児童	A : A+Bが95%以上 C : 上記以外	B : A+Bが70%以上	問5	50	35	10	5	B	



【記述欄】

- ・大人と子どもの上下関係を強調するほめる行為は意識的にも避けるようにしています。同じ社会の一員として有用感、貢献感を得てもらえるよう感謝の意は伝えるように努めています。

【分析・今後の対応】

コロナ禍による様々な行事の削減に伴い、子どもたちの活躍の場が少なくなりましたが、学習や生活の中において、子どもたちは、自分自身が認められる場所を見つけ出すことができたのではないかと思われる。

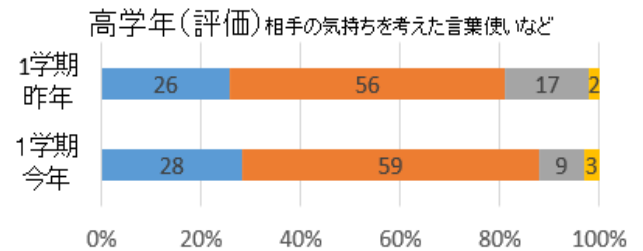
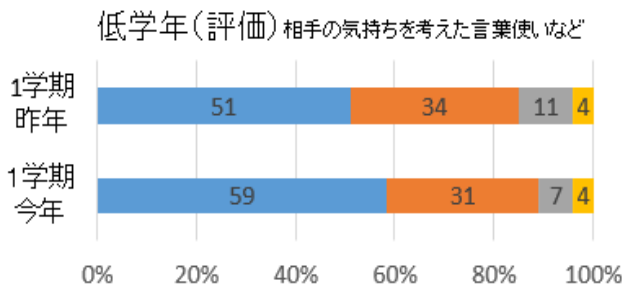
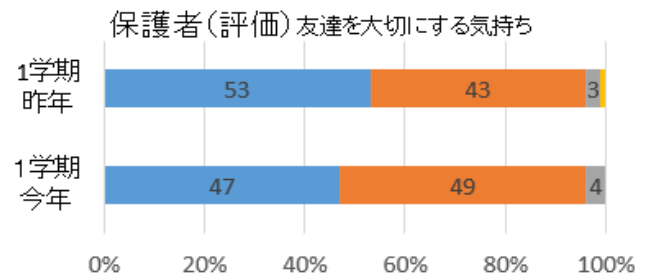
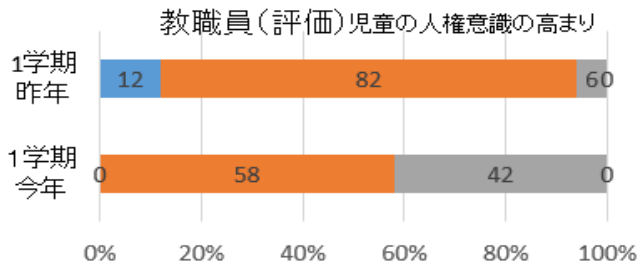
“褒める”ことを意識した教師の声かけや保護者の声かけ、そして、友だちどうしのつながりの中から“自分の居場所”をしっかりと感じられていることが、自分の良さを感じる結果につながっている。また、今年度より、学習において、高学年で教科担任制を本格的に導入したり、低学年でも積極的に教科の交換を行ったりすることで、多くの教師が、子どもたち一人ひとりに関わる機会を増やすことができた。これによって、子どもたちが学習意欲を向上させ、得意な教科を見つけ出すことができたり、「いろいろな先生に教わるのが楽しい」と考え、好きな教科を見つけ出しやすくなり、これが児童の自信につながったと考えられる。今後も、子どもたちの自信につながる取り組みを継続していく。

〈人権意識について〉

- 教職員 (項目7) 児童の人権感覚や人権意識が育ってきている。
- 保護者 (項目6) お子さんは、友だちを大切にする気持ちが育ってきている。
- 児童 (項目6) 相手の気持ちを考えた行動、声かけ、言葉づかいができています。

			A	B	C	D		達成状況	
教職員	A: A+Bが95%以上 C: 上記以外	B: A+Bが70%以上	問7	0	58	42	0	C	B
保護者	A: A+Bが95%以上 C: 上記以外	B: A+Bが70%以上	問6	47	49	4	0	A	
児童	A: A+Bが95%以上 C: 上記以外	B: A+Bが70%以上	問6	44	45	8	4	B	





### 【分析・今後の対応】

子どもたちの人権意識の醸成については、教職員、保護者、子どもたちの意識に差が見られる。家庭や地域においての子どもたちの様子は仲の良い子どうしで遊んでいることも多く、その様子から保護者には子どもたちの人権意識が育まれているように感じられているのではないかとと思われる。一方、学校内において、子どもたち同士の間では、何気ない普通の会話であっても、一般的な人権の視点から見ると、相手の気持ちを考えず人を傷つける言葉づかいで話している子どもたちも見られる。今後は、学校内での何気ない言葉の意味を子どもたちに考えさせ、きっちり指導していくことにより日常的に人権意識を啓発していく必要があると感じている。

また、保護者と子どもと一緒に人権課題について考える機会も設定する。身近にある人権課題について親子で対話しながら親の人権感覚を子どもたちに伝える機会にしていく。さらに、コロナ禍により、差別意識が醸成されやすい環境に子どもたちは置かれている。正しい知識と人権的な意識を子どもたちに啓発し、子どもたちから差別的な態度や言葉が発信されないように指導していく必要がある。

### 【複数学年複数担任制】

#### 【記述欄】

- ・複数学年複数担任制について、子どもは「色々な先生に教わるのは楽しい」と言っています。教え方もそれぞれだと思いますので、これからも良い方向へ行くように改善しつつ進めてほしいと考えます。
- ・いつもお世話になっています。複数担任制となり、どの先生が担任なのか、宿題をしているのにどの先生に渡せばいいのか分からずそのまま持って帰ったり、連絡帳がちゃんと書いてなかったり（初めの方は先生の確認サインあり）とまどっていたので心配しましたが、少しずつ慣れてきたように思います。“けとふれ”もノートを見る限り理解でき、今では自分で考えて、自律、創造がすこしずつできているのではないかと考えています。先生方には、日頃から感染予防・熱中症対策と大変な中ですが、手厚いご指導していただきありがとうございます。おかげで、子どもの笑顔がより増えたように思います。
- ・複数担任制が始まる前は初めてのことで不安に思っていたのですが、実際始まると我が子は「先生が色々変わるから面白いわ」と言っていました。子どもたちからしたらまったく違和感なく過ごせているようです。先生方もノートにコメントをしてくださり、一生懸命向き合ってくさっているのありがたいです。

- ・先日のPTA総会での校長先生のお話で、いろんなことを考えていただき、子どもたちのためにチャレンジして取り組んでもらえているのがよく分かりました。ありがとうございます。息子に複数担任制について聞くと「毎日がスペシャル授業みたい。」と楽しそうに話してくれます。先生方は、4～6年生の子供を受け持つので、とても大変なのではないかと心配になります。大丈夫でしょうか。息子は授業が楽しいと言うので、中央小のチャレンジに、私は大賛成で先生方と一緒に前進したいと思います。よろしくをお願いします。
- ・学校全体として色々な取り組みをして下さり、教科毎に工夫した学習方法を提示して下さるので、ありがたく感じています。
- ・子供が混乱していないのなら良いのではないですか。
- ・複数担任制は親子共々あまりしっくりきません。やはり担任は1人の方が安心します。
- ・教科ごとに先生がかわることはいいと思いますが、ホームルームの時だけでも先生をかかわらず1人に定めてほしいと思います。
- ・ちょっとした事を相談したい時、担任がいないと誰に相談したらよいかわかりません。
- ・4, 5, 6年生が一まとめになってしまい、各学年らしい目標、活動等がわかりにくい、通信もないので不安に思います。
- ・何かあった時、伝える先生に迷う。この先生！と判断する材料もない。同じ先生に窓口になってもらわないと、情報のモレや、温度差が出てしまうように思うので、担任の先生は固定してほしい。副担任制でも。
- ・新学年になってから、コロナでほとんど学校が休みだった為、複数担任制の事がわかりませんが、1ヵ月おきに担任の先生が変わっている為、子供にとって理解できているのか、先生が子供達の事を理解できているのか疑問です。
- ・日常生活の面において、どの先生が責任をもって見てくれているのかわからず、親の不安が大きい。また、コロナの自粛期間中、子供の様子についての電話連絡において、低学年の方は連絡がつながるまでかけ直してくださったが、5年生の方は1回出られないと、かけ直しもなかった。特に話すこともなかったのも、こちらからもかけ直しはしなかったが、複数担任制になると色々な面でこういった責任が分散されてしまっているのではないかと思います。
- ・ホームルーム担当は、1年間変わらない方が良いと思います。(教科担当制については、学力を伸ばす点や中学に進学した時、スムーズに接続でいきるという点で良いと思います。)
- ・1学期間しか新しい取り組みをされてから、日が経っていないので、まだ良かった点、悪かった点が分かりにくいです。学校の先生方からの評価を知りたいです。

### 【分析・今後の対応】

教科担任制を取り入れたことで子どもたちは学習に対しても意欲的に取り組む姿が見られたり、時間を意識した行動をしたりすることができるようになりつつある。一方、固定の学級担任がなくなり、複数担任制となったことで保護者の方の中には不安を感じておられる方もおられる。特に子どもたちの様子を聞きたい時や相談事がある場合、「この先生！」という明確な担任ではなく、複数の職員の中から選ぶことへの戸惑いがあるように思われる。

ホームルーム（以下、HR）担任を配置し、HR担任が変更した場合には、メールで保護者に児童の様子を合わせて知らせている。また、子どもたちの良いことやその日あった出来事については連絡帳や電話などで保護者の方へ連絡を取ったり、毎日、担任団で子ども達の情報共有を行ったりするようになっている。今後は保護者の方の不安な思いがより軽減されるよう、引き続き家庭との連携を図りながら子ども達への支援を行っていく。



## 【その他】

### 【記述欄】

- ・学校生活がとても楽しそうです。ありがとうございます。
- ・毎日いろいろな話をしてくれます。先生方には感謝です。
- ・いつもありがとうございます。楽しんで学校に行っています。
- ・いつもいろいろお世話になりありがとうございます。これからもよろしくお願いします。
- ・一日一日を自分で楽しんで送っている姿に安心して毎朝送り出しています。本人の「何でも楽しむ」姿勢もあるかとは思いますが、友だちや先生方に見守られている安心感からではないかと感じています。ありがとうございます。
- ・先生方の温かい見守りのおかげで「学校」という場所=嫌なところにならず、少しずつでも登校するに子どもの意識が向いていると感じています。親がもっと子どもに関心をもって関わることも必要だと感じています。
- ・一年生になり、すぐに休校になったため、勉強の遅れや学校生活になれるのか？と不安もありましたが、先生方がしっかりサポートして頂けているので、不安なく学校に通えています。本当にありがとうございます。
- ・コロナウイルスで誰も何が正解かわからない中、子どもたちのことを考えていろいろな対策を取ってくださってありがとうございます。毎日、学校であったこと、嬉しそうに報告してくれます。
- ・コロナ休校中が長くあまり成長を感じるができなかった。これからの期待します。
- ・今年度、コロナという大変な状況の中、子ども達の事を考えて下さって本当にありがとうございます。私達も体調管理など、やれる事は限られているかもしれませんが出来る事から協力できればと思っています。